

添付資料：

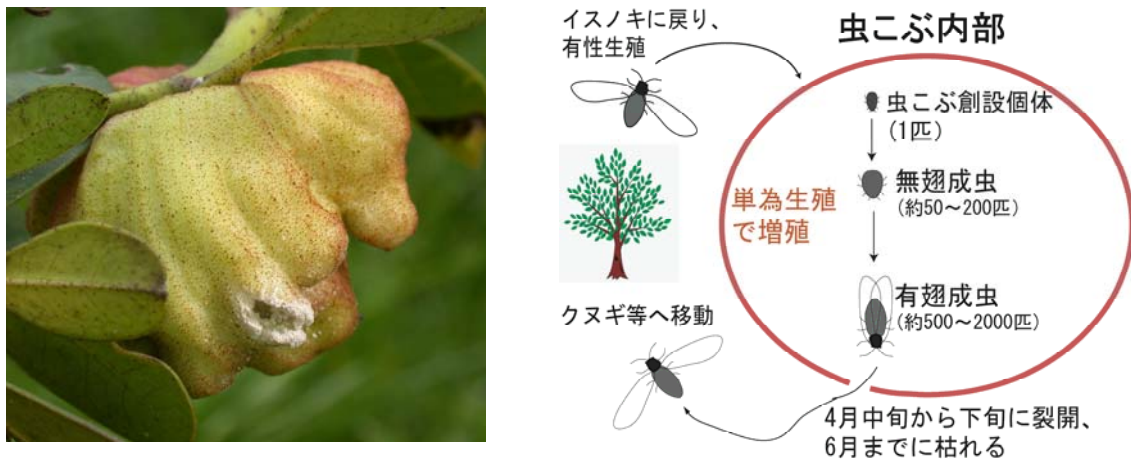


図1. (左図) イスノキに作られたヨシノミヤアブラムシの虫こぶ。開いた脱出口から有翅成虫が飛び立つ。(右図) ヨシノミヤアブラムシの生活史。虫こぶ内でまず無翅成虫が生じ、無翅成虫から産まれた個体が成長して有翅成虫となる。無翅成虫と有翅成虫になる予定の1齢幼虫が、虫こぶ内に侵入する天敵(テントウムシ幼虫・ガの幼虫など)に対して防衛行動を示す。



図2. ヨシノミヤアブラムシの2種類の兵隊。無翅成虫(左)は分泌液で付着することにより敵の動きを止め、1齢幼虫(右)は口吻で刺すことにより攻撃を行う。

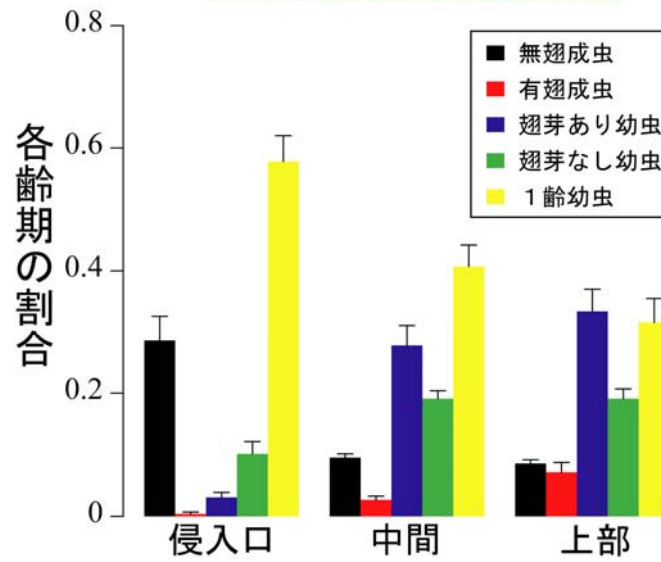


図3. 虫こぶ内のアブラムシの分布。敵に捕食されるリスクの高い侵入口付近では、兵隊である無翅成虫（黒色の棒グラフ）と1 齢幼虫（黄色の棒グラフ）の個体数の割合が高くなっている。